NIE実践報告

1．タイトル：新聞を身近なメディアとしてとらえ、自らの課題を発見することができる新聞活用

2．学校名

長野県松川村立松川中学校

3．実践者名（代表者名）

黒岩理恵子

4．学年

中学3年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

総合的な学習　　32人

6．単元（本時の学習課題）名

「沖縄新聞」を発行しよう！　　～長野県の中学生に、沖縄について知ってもらおう～

7．目標(狙い)

沖縄で起きた事実や今ある問題を生徒自身もっと深く知るとともに、沖縄についての新聞を作り、情報活用や表現力、関係形成能力を高める。

8．評価の視点

①人間関係力　②情報活用力　③意思決定力　　以上の能力が身についたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

沖縄について多面的に調査し、クラスで一紙を作った。（総合的な学習の時間　全44時間）

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①沖縄についての報道の違いを、新聞スクラップなどを通して読み取る。（情報収集　4時間)
②実際に沖縄の方から歴史や基地問題についての話を聞き、そこから分かったことやどのように学習を進めていくのか考える。（人間関係力・意思決定力　4時間）
③新聞作りのノウハウを記者の方に教わり、どのように新聞を作っていくのか学ぶ。（情報収集　2時間）
④取材計画をたて、情報を入手したり、取材をしたりする。（人間関係力・情報活用力・意思決定力16時間）
⑤編集会議を開き、記事や見出しを書いて入力する。（人間関係力・情報活用力・意思決定力　16時間）
⑥新聞を封筒に入れ、長野県内２００校に送付する。（２時間）

11．児童・生徒の反応、感想・意見

この学習を通して、何より生徒や私の財産となったことは「人との出会い」である。NIEは地域と繋がるだけでなく、広く世界と繋がっていけるということを実感した。そして、たった６ヶ月ではあったが、記者という職業の苦労や報道の過酷さを生徒たちなりに実感し、改めて報道される方々への感謝の思いを持った。

12．成果と課題

クラスの生徒の構成員の特徴に合わせて、紙面を作成した結果、全員が自主的に学習活動を進め、満足感を得ることで、学習への達成感を持った。とくに、基礎･基本の力が高い生徒たちにとっては、高度な情報活用力、思考力や表現力を要求される紙面作りは、学習に対するあらたな見方･考え方を獲得することができると考えられる。
また、学力の向上がみられた。新聞を読んだ各方面の方から、文章表現力の高さを評価された。